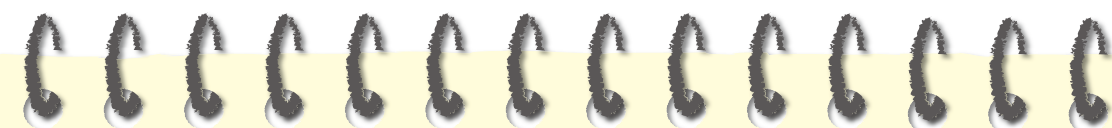


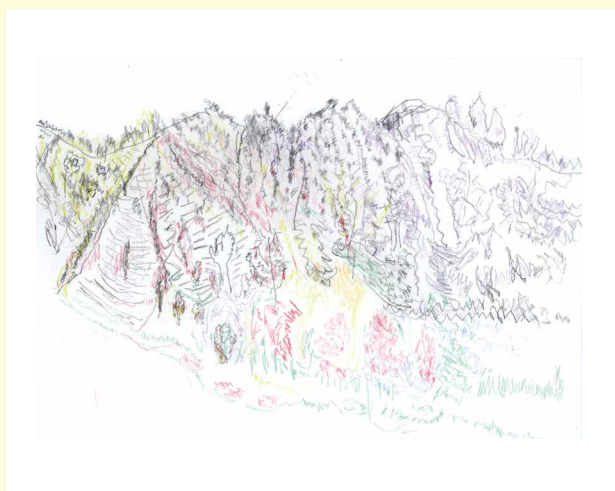
最初の入院のときは、球脊髄性筋萎縮症という病気のため筋力低下と手指の震えもあり、細かな動作が行いにくい状態でした。作業療法の中で適切な力で手を使う練習を行い、動きが改善。何かをやってみようという気持ちになったとき、偶然周囲で片手のみで版画を制作している方がおり、版画に初挑戦しています。自宅にあった彫刻刀を研ぎ、ベニヤ板を購入、水彩絵の具にのりを混ぜ刷りました。できた作品で賞が取れ、活動意欲がさらに増し、大きな作品もつくるようになりました。

今回は作業療法室にあるカレンダーの写真に創作意欲が刺激され、「食べてみたいのどぐろ」が完成しました。現在は通所リハに通い、半年に1度の入院治療をしながら創作活動を続けています。体の状態に合わせ、最近では水彩画、切り絵にも挑戦しています。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



田村トマリ「只見の山々」

長年にわたる施設生活の中で、歳を重ね、思うように身体が動かなくなってきたことに、時に涙を浮かべられることもありました。ある日、OTと共に窓越しに外の景色を眺めていると、ご本人自ら「小さいころ、絵を描いていた」とお話しくださいました。そこから、絵画が始まりました。山の景色に目をこらし描いていくため、目の疲れがあったようです。しかし、「今日も描こう」と作業に励まれ、気づくと1時間も取り組まれる日もありました。数カ月かけて完成した作品を周囲の人に見てもらっては、得意そうにされるご本人の表情が印象的です。(担当 OT：飯島小百合)